

鳥飼八幡宮式年遷宮PJ  
外構計画図  
1/500 (A3)  
2023.01.20  
moar

## 新規事業用地

明治通りからのスロープを延長し、新たな参道を形成する。参道に沿って振武館、伝承館、道場、神子屋などの計画を将来予定しています。

## 方位石

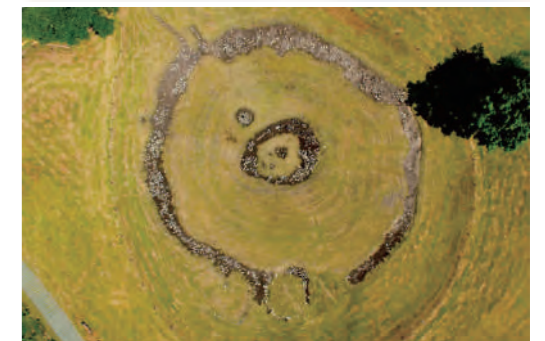
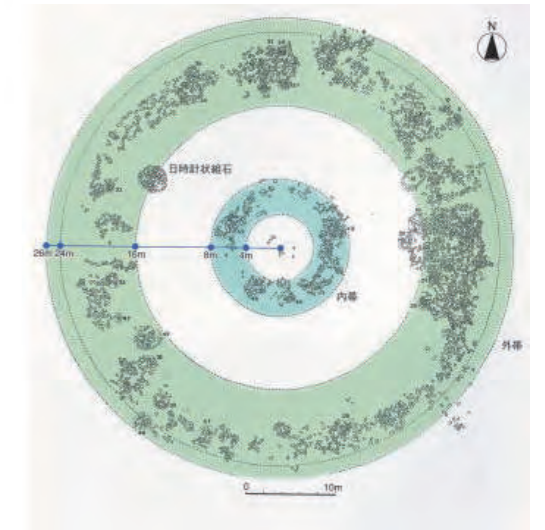
神社にとって大切な方位。星の動きや太陽の位置、暦はこれらを読んだもの。拝殿を中心とした、各方位に配置する方位石で1000年後にも鳥飼八幡宮がここに在ったという痕跡を残す。



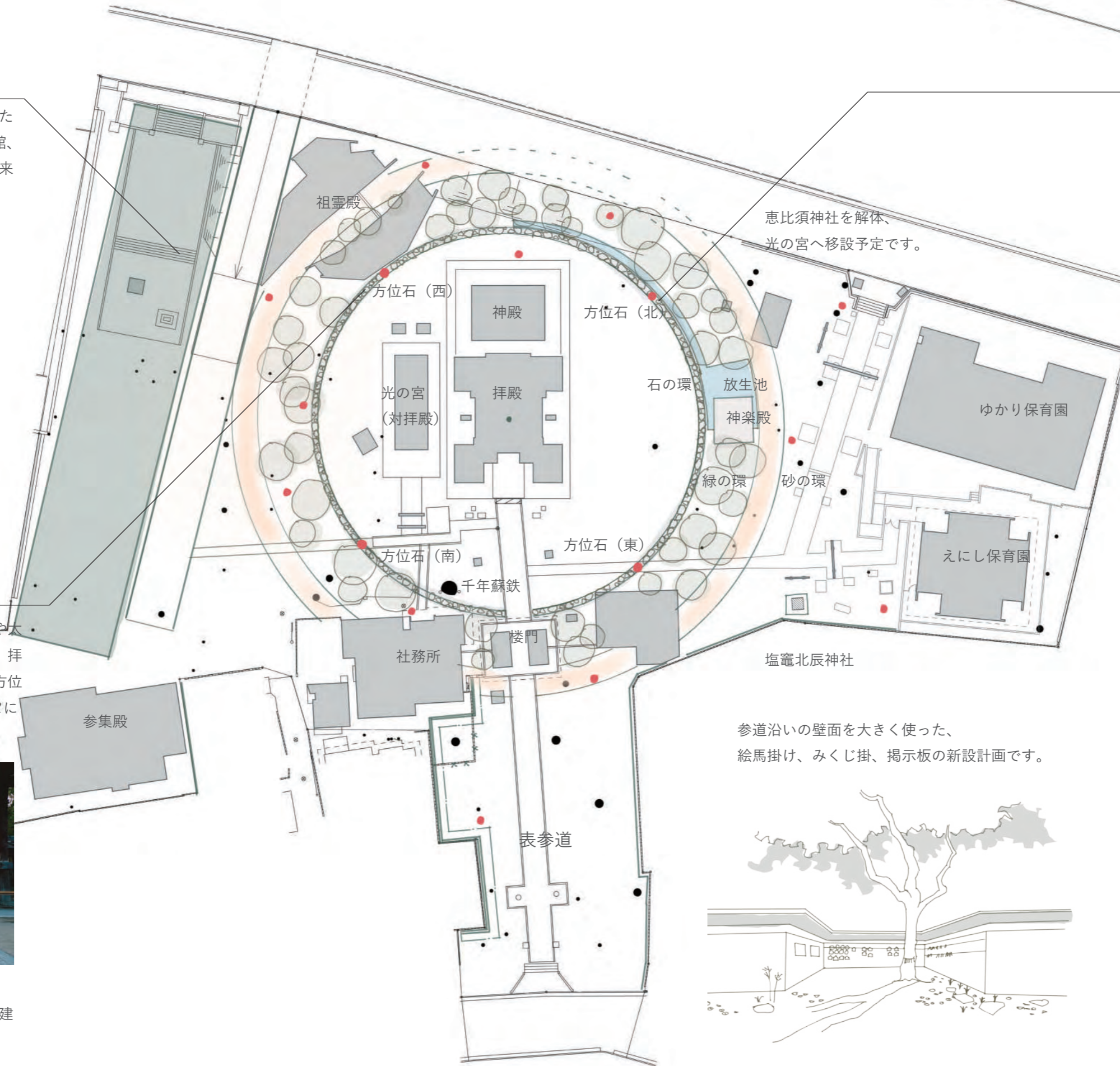
冬至の朝、楼門へ光が差す。他にも鳥飼八幡宮には方位を意識した建物配置計画などの仕掛けが多く見られる。

## 環状列石

縄文時代頃よりあったとされる、環状列石は、当時の人々にとっての生活する広場であり、祈りの場であったとされる。また、太陽などの天体の位置（方位）を意識した配置になっていることが、4000年経過した現在でも確認できる。鳥飼八幡宮の遷宮プロジェクトでも、まずは1000年先の未来を見据えて、未来永劫残る、不変なものを目指します。神聖な祈りの場、外界から守られた鎮守の杜でありながら、人々の暮らしを支える広場のよう開放された境内となります。



縄文時代の環状列石跡（大湯環状列石）



恵比須神社を解体、光の宮へ移設予定です。

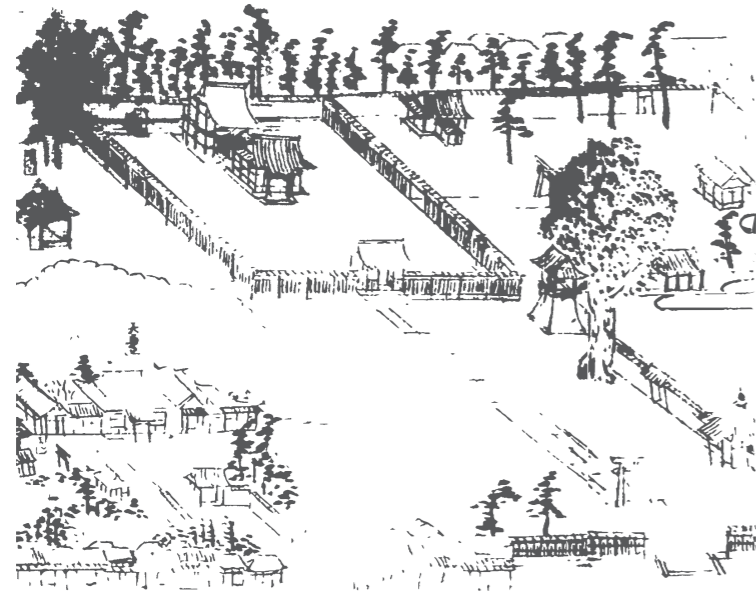
参道沿いの壁面を大きく使った、絵馬掛け、みくじ掛、掲示板の新設計画です。



鳥飼八幡宮 外構計画図

## かつてあった海辺の神社

神社を見れば、その土地の本来の姿がわかるといいます。砂質の地盤、古い松の木のある植生など、かつて海辺にあった鳥飼八幡宮のもつ原風景を未来へ残していくため、これらを積極的に取り入れた外構計画とします。



江戸時代の鳥飼八幡宮（筑紫名所図会）  
海岸沿いに松林の並ぶ神社だったことがわかる。

